

<b>【科目名】</b> 感染症学		<b>【担当教員】</b> 平田 恒彦 (メールアドレス) 大学取次 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 来学時に対応
<b>【授業区分】</b> 専門基礎分野 (臨床医学)	<b>【授業コード】</b> 2-12-0360-0-1	
<b>【開講時期】</b> 2 年次 後期	<b>【選択必修】</b> 必修	
<b>【単位数】</b> 1 単位	<b>【コマ数】</b> 8 コマ	
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) 今後：臨床実習を行う学生には、自分自身を守るためには大切な知識を提供するので受講してほしい。  (受講のルールに関わる情報・予備知識) マスメディアの情報、ニュースに注目。聴講時の飲食・雑談および無言勝手な出入りは厳禁である。		
<b>【講義概要】</b> (目的) 数々の抗生物質やワクチンの登場以来、「感染症」は終わったとの見方が医療関係者や研究者の間で大勢を占めつつあった。そんな時に病原大腸菌 0-157 が襲ってきた。忘れつつあった細菌の襲来である。感染症、それはヒトが活着している限り、他の生物との関わりの中で、避けられない環境の中で起こる 1 つの現象である。学問としての内容は古典的な面は多くあるが、忘れてはいけない医生物学の一分野である。そのため、感染予防対策を伝染病という観点からも眺める。 (方法) 本講座においては、他の生物との兼ね合いを考えながら、解剖生理学、免疫学、疫学等を背景にし、広い視点から学習をすすめる、リハビリテーション現象での具体的な問題を考察する。		
<b>【一般教育目標 (GIO)】</b> ・感染症について理解し、医療現場 (特にリハビリテーション現場) での感染症予防について理解することができること。 <b>【行動目標 (SBO)】</b> ・感染症に関する話題を語れるようになること。		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 渡辺渡著「好きになる微生物学」講談社		
<b>【参考書】</b> 講義内で必要であれば紹介する		
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。 成績評価は、期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。		

平成 26～28 年度入学者用

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		85	0	10	0	0	0	5	100 点
評価指標	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力	50						5	55
	コラボレーションとリーダーシップ	15							15
	発表力	10		5					15
	学修に取り組む姿勢	10		5					15
【授業日程と内容】									
回数	講義内容			授業の運営方法	学修課題(予習・復習)			時間(分)	
1	微生物とは。細菌とは			講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。			10分	
2	細菌の種類と特徴(1)			講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。			10分	
3	細菌の種類と特徴(2)			講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。			10分	
4	ウイルスとは			講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。			10分	
5	真菌とは			講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。			10分	
6	感染防御			講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。			10分	
7	抗菌薬＝化学療法薬			講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。			10分	
8	微生物の分類的整理			講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。			10分	

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。